

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

284-716

事務事業名	体験活動推進事業				財務会計上の位置付け	会計	1	款	10	項	5	目	113	細々目	1	19予算額(千円)	1,200	
部等名	教育委員会	課等名	生涯学習・スポーツ課		包含する細々目													
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり																	
施策	29 ふるさと意識の醸成																	
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	不要	関連計画 条例等												
		事業期間	18	年度～	23		年度											

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値				
	市民 小学生、中学生、高校生、及び若者(25歳まで)	飯田市の人口(人) (H18.10.1推計人口)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度	23年度以前に終了は終了年度とする		
		人数:人	107844	107000			
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)				
			飯田市の資源を活用して、地域の価値と独自性を自覚した人を生み出す	体験プログラム数	18目標	20	最終目標
			18実績	20	19目標	50	↑
			23目標		23実績		最終目標達成年度
			18目標		最終目標		
			18実績		19目標		↑
			23目標		23実績		最終目標達成年度

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	地育力向上連携システム推進計画の3本柱である体験プログラムを開発し、小学校、中学校の総合的な学習の時間や特別活動、高校生の地域体験活動、子育て支援グループの活動、公民館活動などに活用する。体験とは、自然体験、生活体験、交流体験であり、地域資源とは、自然、人、文化、歴史、民俗、産業などである。地域資源を活用することによって、郷土愛を育み、心豊かな人づくりにつながる。	18年度の実績  19年度計画	地育力向上連携システム推進計画の策定を行い、中学校の体験活動を支援した。また、公民館等と連携し、体験プログラムづくりと人材などのデータの集積を行った。  地育力向上連携システム推進計画により、中学校の体験活動を支援する。また、公民館等と連携し、体験プログラムづくりと人材などのデータの集積を行う。さらに、高校生に対する体験活動を当面3校において学校の協力を得て実施する。	開発した体験プログラム数  開発した体験プログラム数 体験活動を行った高校生の数

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	国庫支出金		
	特定財源		
	起債		
	その他		
	一般財源	750	1,200
事業費計(A)		750	1,200
人件費	正規職員所要時間	18年度 80	19年度 160
	臨時職員等所要時間	160	320
	人件費計(B)	458	916
	トータルコストA+B	1,208	2,116

特定財源内訳や補足事項	
-------------	--

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	地域を知る。 地域を誇りに思う。	ふるさとを誇りに思っている市民の割合	現状値	75.3	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	85
	この地域に住み続けたいと考えている高校生の割合		現状値	48	19実績	
			20実績		21実績	
22実績				23目標	60	

この事業を開始したきっかけ 地育力向上連携システム推進計画の3本柱である「体験活動」の具体的な展開として実施した。	事業を取り巻く状況の変化 地育力の定着と共に、子供たちの状況を打開し、地域の教育力を高める具体策が必要になっている。	事業に対する市民や議会の意見 平成18年10月22日開催の「子どもの教育を考える市民の集い」分科会などの市民意見からも地育力向上連携システムと体験の効果に対する期待は大きい。
--	---	--

### 【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？ (評価) 結びつく (その理由) 飯田の資源とは、自然、人、歴史、文化、産業などの地域資源であり、これを体験することは地域を知り、地域の特性に気が付き、誇りに思うことにつながる。	成果をさらに向上させる余地はありますか？ (評価) 余地がある (その理由) 学校、公民館との連携体制の推進による。
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？ (評価) 必要性がない (その理由) 18年度計画策定。	廃止・休止した場合の影響はありますか？ (評価) 影響あり (その理由) 地育力の柱であり、市民が地域を誇りに思うという意識醸成ができない。
	意図の見直しの必要性はありますか？ (評価) 必要性がない (その理由) 18年度計画策定。	他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む) (評価) 類似事業なし (類似事業名、理由) 教育委員会の人材育成に関連し柱の施策となっている。
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか) (評価) 必要ある (その理由) 体験活動のプログラム開発やコーディネートは地域の多くの人々との関わりが必要であり、市の関与が必須である。	効率性評価 成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？ (評価) 不可能 (その理由) 19年度より本格的に実施する。
	公平性評価 受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？ (評価) 妥当である (受益者とその理由) 受益者は施策の対象である市民。	

### 【Plan】改革改善

<b>今後の事業の方向性</b> <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 実施年度 <input type="text"/> 具体化	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	

#### 【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	必要性がない	(2) 必要性な場合の実施事由	
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？			

#### 【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	